これからの社会を生きる子供

校長　須藤　清

この日グランディ２１セキスイハイムスーパーアリーナはほぼ満席でした。（主催者発表 2,365 人）

アリーナを含むグランディ２１の小高い丘陵一帯が管楽器と打楽器の重なる音と応援の保護者や聴衆の歓声に満ちていました。

駐車場から会場まで後ろを歩いていた岩手代表チームの方が「サザンのときみたいだもの・・・」と夏のサザンオールスターズ復活コンサートにも負けない熱気に感嘆の声をあげていました。

東北大会のレベルになると、小学校であってもどの学校も音色に優れ、コンサートとして楽しむのに十分なものです。アリーナの大空間は各代表校の音に魅了され観衆が飲み込まれていきます。ほとんどの代表校が３０人以上の編成で作り上げた音をフルボリュームで響かせます。

「点数の差が付くのだろうか」となりの席の方々の話し声が聞こえます。私も同感の思いで聞きこんでいました。

そんな中プログラムのとおり南郷小学校は２９校中２６番目にその広いアリーナに姿を見せました。

２，３６５人の軽いどよめきが起こります。本校は１６人の小編成です。パート一人一人の子供の間に大きなすき間があきます。心細さへの応援のどよめきとも聞こえました。事実子供達もあの中で自分を保つことは大変なプレッシャーとのたたかいだったと思います。

しかし。

阿部教諭の指揮棒がふり下ろされた瞬間、会場のどよめきは感嘆の声にかわりました。

私の後ろにいた福島代表の子供達から「すげぇじゃん。一人で三人分響かせているよ。」との声が聞こえます。そう、聞く者の胸にストライクボールをズバッと投げこむような素晴らしい演奏だったのです。演奏後の大拍手はいうまでもありません。

宮城県教育委員会高橋仁教育長が「ある時は凍てつく冬の体育館で指先を温めながら、またある時は炎天下のグランドで汗だくになりながら失敗に負けずに厳しい練習を積み重ね・・・」と大会への祝辞を寄せました。まさに本校の１６人のことだと思いました。

本校は「失敗してもまたがんばる子」を目標に取組を重ねています。

マーチングのみならず野球、サッカー、柔道、剣道、ラグビー等スポーツ少年団の練習の日々に、また全校児童の日々の学習活動にも高橋教育長の言葉はそのままあてはまります。「失敗しながらも成長する態度」を身につけられるのであれば、それこそが一人一人が大人になってこの社会を生きる「力」になると考えます。

マーチングに１１月から１年生をはじめ数人の新入部員が入りはじめました。

６年生の卒業に続く新しい音づくりへの挑戦が始まりました。

※　毎日部員募集中です。何月からはじめても来年の大会までには十分成長できるとのことです。